

「日々の理科」(第2471号) 2021,-4,18

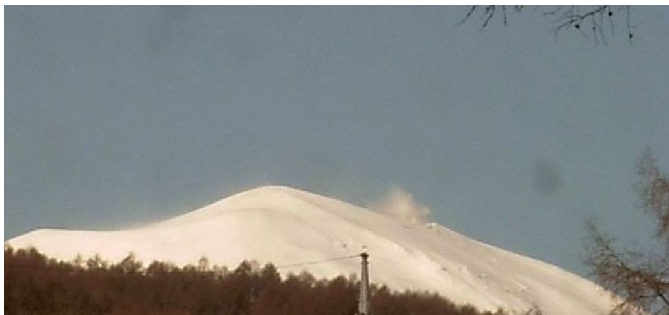
「浅間山、再び雪化粧」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

4月下旬に、山肌のほとんどの雪がとけてしまった浅間山だが、4月17日から18日の荒天で、再び雪化粧をすることになった。



写真上は4月15日、下が4月18日の朝の様子だ。東京から遠隔操作で撮影した。16日は天気が悪く、様子がわからなかったが、恐らく一晩で真っ白になったと思われる。この写真では浅間山の山頂付近(標高2,300m以上)しか写っていないので、恐らく裾野は雪が積もっていないだろうと思った。



これは北軽井沢の友人が今朝撮影して送ってくれたものだ。押切場(おしきっぱ)という景勝地で、正面に浅間がよく見える。意外と裾野まで白くなっている。雪線はおおよそ1700m付近のようだ。



これは別の友人が撮影したもの。木々はまだ新緑には程遠く、冬枯れの景色のまま「春は名のみ」という感じだ。実際に、風も冷たかったという。



その後、上の写真の地点では、「あられ」が降ったという。あられは観測上は「降雪」として記録される。浅間高原では4月だけでなく大型連休中にも雪が降ることがあり、自動車が立ち往生したこともある。



しかし、少し標高の低い嬬恋村三原では、今まさに桜が満開である。写真は、吾妻線の万座・鹿沢駅前の国道の桜並木だ。ここはライトアップされて、夜桜も美しい。今の時期、浅間高原を訪れると、いろいろな季節を一度に楽しめそうだ。